様式第３号の２（第７条関係）

審　議　経　過〔要点記録〕

（１）第２期伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

①　第１期市総合戦略の検証について（資料１）

資料を用い、人口の推移や成果目標等の達成状況など、第１期市総合戦略の検証について説明を行った。

〔谷口委員〕

成果目標や重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成度はＡ評価とＢ評価を合わせて８割以上と、概ね達成しているにも関わらず、総合戦略の一番の目標とする人口については達成していない。設定した指標が人口減少を抑制することに直結していないのではと思うので、もっと検証してみては。

〔事務局〕

市としても、最終的に人口減少の抑制に結びついていない点に関しては問題があると認識している。当初の目標を達成できなかった分については、反省すべきであり、２期戦略については、人口の維持に貢献できるよう変えていきたい。「このような数値データが取れればよいが」と思うものはあるが、把握が難しいものもあるため、指標の設定については、皆様にも知恵をお貸しいただきたい。

また、人口については、人口ビジョンの数値は国勢調査のものだが、調査が５年おきのため、年次的な推移は住民基本台帳の数値との比較である。今年実施する国勢調査の確定値とは差が生じるため、もっと人口減少がすすんでいる可能性もある。

〔戸田先生〕

谷口委員の指摘は重要な指摘である。真摯に受け止め、２期の戦略に生かしていきたい。

〔青木委員〕

人口の検証で、武雄市、小城市、佐賀市への流出が多いことが気になる。近隣の市町に転出していることに対して、理由などをもう少し深く検証したほうが良い。

〔事務局〕

それを調べるため、市民課窓口で転出入者に対するアンケート調査を行ったが、転出者からのアンケートはなかなか回答いただけず、実態としての把握が難しい。転入者の理由としては仕事や家庭の都合等によるものが多く、転出についても同様の理由ではないかと推測はできるが、細かい分析についての検証は難しい。

〔戸田会長〕

引き続き「仕事」と「住みやすさ」の両方の側面から分析していく必要がある。

〔谷口委員〕

回収が難しいことを前提としても、アンケートは続けていくべきであると思う。武雄市に転出した知り合いがいるが、子どもが武雄市の中高一貫校に進学するためとのことだった。そのような人が多いと、教育分野の対策が必要となるので、引き続き転出原因の分析は必要である。

〔松下氏（アイ・ケイ・ケイ株式会社　金子委員代理）〕

伊万里市から武雄市のリハビリ・看護の専門学校へ毎年２０人～３０人ほど入学しているということを聞いたことがある。卒業後は伊万里市外へ就職し、戻ってこないのではないか。

〔中川委員〕

男性の２０歳～２４歳は転入超過で推移しているが、女性の同年代ではそうなっていない。この要因は何か。

〔事務局〕

推測ではあるが、その年代は就職に伴う移動が多いということと、伊万里市が男性中心の仕事が多い地域であることなどが原因として考えられる。

〔石本委員〕

家庭においても女性の力は大きくなっているため、女性に視点を置いた取組が必要である。例えば、武雄市でやっているような若い女性を中心としたイベントなどがあれば、妻につられて夫もついていく。伊万里にはそのような取り組みがないように思える。また、ＰＲのしかたも検討する必要がある。

〔事務局〕

確かにその視点は大切である。女性が住みにくい街には定着してもらえないと考えており、男女協働の視点というのは２期の戦略で重視したい取組の一つである。ＰＲのしかたについては、シティプロモーションの取組の中で積極的に推進していきたいと考えている。

〔戸田会長〕

重要な指摘である。居住地の選択においても女性の意向が大きく働くこともあるので、女性に選んでもらえるような仕事があることなど、「選ばれるまち」であるための取り組みを行う必要がある。

② 第２期市総合戦略について（資料１）

資料を用い、第２期市総合戦略の基本方針や基本目標、推進する施策について説明を行った。

〔谷口委員〕

人口に関して、第２期の目標値は定めているのか。

〔事務局〕

人口の目標値については、かなり厳しい数値であることは理解しているが、人口ビジョンの将来展望の令和７年の数値である５３，８３０人を目指したい。

〔谷口委員〕

① であれば、第２期総合戦略に明記してはどうだろうか。

② しかし、５３，８３０人を達成するためには、自然減分を考慮すると社会増減をプラスに転じるよう目標を設定しなければならず、かなりシビアなものになる。実効性のある指標となるよう、整理が必要であると思う。２期戦略の策定期限内に反映させるのは難しいと思うが、１、２年かけて実効性のある取組を検討し、必要に応じて変更していければと思う。

③ 基本目標２は、「行きたいまち」ではなく「移住したいまち」にし、住むことをイメージできるような目標にしてはどうだろうか。

〔事務局〕

① 人口の目標値は何らかの形で第２期総合戦略に明記したい。ただし、人口ビジョンでは、「目標」ではなく「将来展望」としているため、整合性を図る必要はある。

②　目標設定については、前提である人口について、今年度の国勢調査で動く可能性があるため、それを受けて現実的な数値に変えることもありうる。２期総合戦略は９月までに提出する必要があるが、暫定的な数字も含まれているので、必要に応じて途中で改定することはできる。

③　最終的な目標は確かに移住だが、それだけではなく交流人口や関係人口を増加させる取組も必要と考えているため、それを包括し「行きたいまち」としている。

〔谷口委員〕

第２期の計画期間が終了したときに、第１期の検証同様、評価は良かったが肝心の人口の目標は達成できなかったとならないように、実効性のある計画としていければと思う。

〔事務局〕

戦略がある程度固まったところで、アクションプランも策定するので、実効性のある取組を進めていきたい。

〔田代委員〕

人口の減少対策は簡単ではない問題であり、農業の面においても市に支援してもらっているが、ＪＡ伊万里としても新規就農者の増加の取り組みを推進したい。また、農業においても女性の力は大きいので、女性の視点も大切にしながら、取り組みを進めていきたい。

〔石本委員〕

全体的にみて、新型コロナウイルス感染症の影響もあるなか、目標値が高すぎる（達成できそうにない）気がする。

〔事務局〕

特に基本目標２の部分に表れていると思うが、新型コロナウイルス感染症の影響が続いている間は当面達成できないと考えている。ただし、そのような中であってもコロナ禍が過ぎた時に早く達成できるよう準備を進めていく期間であると考えている。目の前での達成は難しいが、この５年間の中で進めていきたい。

〔石本委員〕

それは理解できるが、今の現状を考えるとなかなか難しいように思う。

〔戸田会長〕

たしかに難しいように思うが、目標の標記のしかたなど、余地はあるので検討をお願いしたい。

〔事務局〕

検討する。

〔溝口委員〕

確かに、到底達成できないような目標値を設定してしまうと、取組の方向性まで変わり、実効性あるものとならない。現実的に達成できそうな目標のやや上くらいの目標設定が良い。また、人口の問題を考えた時には雇用の確保が重要であると考えるため、市としては企業誘致などの民間でできない部分の取り組みを行っていただけたらと思う。

〔小笠原委員〕

少子高齢化が進む中で人口の問題は本当に難しいと感じている。佐賀市に住んでおり１年半前に伊万里に赴任したが、赴任前までは伊万里市へは２、３回しか訪れたことがなかった。実際来てみるとよいところがたくさんあると感じているので、それを知ってもらうことが大切である。まちづくりと人口の増加を考える際に、そういう視点も取り入れてみてはどうかと思う。

〔松下氏（アイ・ケイ・ケイ株式会社　金子委員代理）〕

戦略の中で新型コロナウイルス感染症の問題は、ベースの部分ではなく、別枠の問題のようになっているように感じる。例えば、感染症対策を徹底し、「日本で一番コロナ対策ができている伊万里市」を確立できたら、移住者へのＰＲ手段となるのではないかと思う。どこかに新型コロナウイルス感染症の問題をベースとした取組を取り入れてみては。

〔事務局〕

確かに、２期戦略の策定に取りかかり始めた頃にはなかった問題であり、ベースの部分でみるとどうしても「後付感」があるのは否めない。今後の状況というのが見えづらい中で、極力盛り込んではいるが、全体的な見直しの作業の中でその点も配慮したい。